

果樹カメムシ類情報第3号

令和7年8月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

早いところで8月上旬から果樹園に飛来する可能性があります！

1 果樹カメムシ類の発生状況

- (1) 新城市の予察灯における誘殺数は、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシともに平年並で推移しています。
- (2) チャバネアオカメムシのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年並からやや多い状況です（図1）。（調査地点：小牧市、豊川市、豊田市、幸田町、新城市）

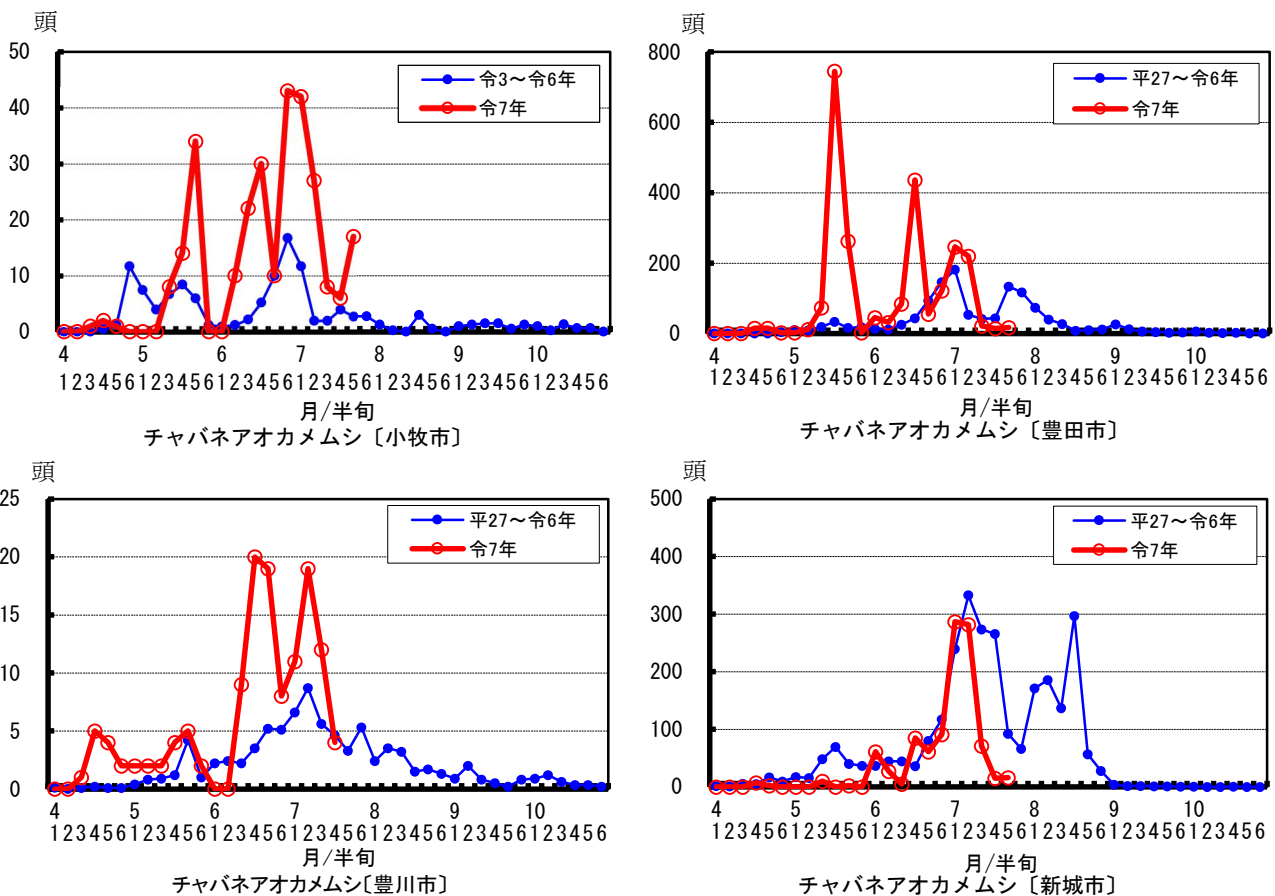


図1 フェロモントラップにおける誘殺状況

- (3) 7月下旬にヒノキ林で調査を行ったところ、ヒノキ1結果枝当たりの成虫と幼虫合計生息虫数は、チャバネアオカメムシが0.35頭（平年0.58頭、前年0.73頭）で、過去10年と比較して平年並でした。クサギカメムシは、0.05頭（平年0.02頭、前年0頭）で、過去10年と比較して2番目に多い状況でした。ツヤアオカメムシは、0.05頭（平年0.08頭、前年0.12頭）で、過去10年と比較して平年並でした。

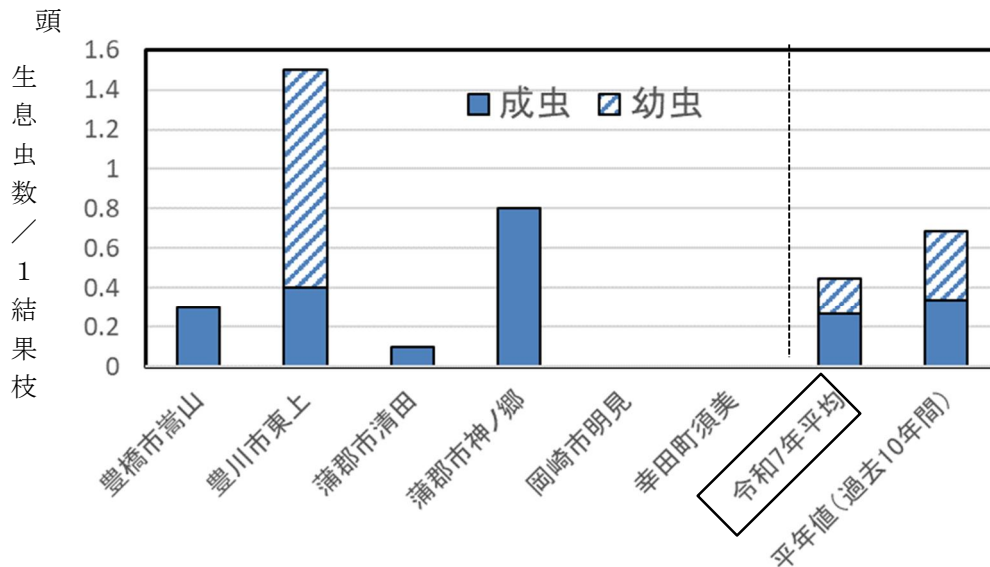


図2 7月下旬のヒノキ1結果枝当たりの果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ合計）の生息虫数

2 今後の発生予測

- （1）現在は、越冬世代成虫から新世代成虫への世代交代時期に入っています。7月下旬のヒノキ1結果枝当たりの果樹カメムシ類（チャバネアオ、クサギ、ツヤアオ合計）の寄生数は概ね平年並で、調査地点によってはやや多く（図2）、調査地のヒノキ球果の結実量は平年並であるため、8月以降に発生する新世代成虫の発生量は平年並からやや多いと予測します。
- （2）果樹カメムシ類は、ヒノキ球果における口針鞘数（吸汁した痕）が25本になると餌として不適になるため、ヒノキ林から離脱すると言われています。7月22日、23日に採取したヒノキ球果における口針鞘数から予測した離脱開始時期は、蒲郡市清田町で8月上旬、幸田町須美で8月中旬、豊橋市嵩山町、豊川市東上町、蒲郡市神ノ郷町で8月下旬、岡崎市明見町で9月上旬です（表）。
- （3）中山間部に近い果樹園や例年飛来量が多いほ場では、表の離脱開始予測時期を参考に、園内の発生状況に十分に注意し、飛来を確認したら防除しましょう。特に、スギ・ヒノキ林の近くの果樹園では、台風通過などで突発的に飛来が急増することがあるので、注意しましょう。

表 ヒノキ球果の口針鞘数から予測したカメムシ類のヒノキ林からの離脱開始時期

調査地点	豊橋市 嵩山町	豊川市 東上町	蒲郡市 清田町	蒲郡市 神ノ郷町	岡崎市 明見町	幸田町 須美
1球果当たりの 口針鞘数	5.7	3.9	9.6	5.7	2.8	8.7
離脱開始予測時期	8月下旬	8月下旬	8月上旬	8月下旬	9月上旬	8月中旬

ヒノキ球果採取日：7月22日、23日